

唯一無二のプロジェクト

最近では「リケジョ」という言葉が世間に広まり、「ドボジョ」（土木出身女子）という言葉も少しずつ使われるようになっていくが、私の大学時代は土木を志す女子はめったにいない時代であった。

学生時代、OBの方々の話を聞く授業があり、面白かった。中でも、プラントや大型構造物の建築プロジェクトに関わる方の「土木構造物は、他の機械製品とは異なり、全く同じものは一度とない唯一無二の製品であり、だからこそプロジェクト

凛としていきる

理系女性の挑戦



新環境提案 女性の視点必要

トゴの困難や課題も異なり、それが面白い」とこの言葉にひかれ、就職の道もその方面を志すことになった。

新卒では重工業メーカーで橋梁設計に、その後LNG（液化天然ガス）プラント設計に

携わり、まさに唯一無二のプロジェクトであった。顧客も官公庁から海外の大手ガス会社まで多岐にわたり、立地、要求仕様やコスト条件も異なる中で百点にどこまで近づけられるかをプロジェクト

の工程や設計、施工や調達の工夫で追求する仕事で、非常に挑戦のしがいがあった。

30歳を機に現在の会社に転職をしたが、やはりこの

同僚の用地取得のお祝い

でも唯一無二の不動産開発という仕事に魅力を感じている。ただし、顧客が求めるものや価格条件等については何が正解なのかを模索しながら働くやり方である点は、前職とは大いに異なるが、正解がないという点で非常にやりがいを感じている。今も昔も、竣工時に苦労を思い出しながらしみじみと案件を眺める瞬間が、一番好きな時間である。

現「事業企画部」は主にオフィス用地取得を行う部署であるが、取引で女性に会う

ことはほぼなく、海外での仕事との違いに驚いている。不動産業界という仕事柄、毎晩に近い頻度で行われる夜の情報交換も大切なのだが、幸い(?)にも私はお酒も食事も好きのため、楽しみながらできている。

△ (火曜日に掲載)

三井不動産 ビルディング事業企画部事業企画グループ

福原 理子



△ (プロフィール) 99年(平11)東京大学工学部社会基盤工学科卒業、同年重工業メーカー入社。07年三井不動産入社、現在はオフィス用地の取得業務に従事。